

「地域づくりオープンカフェ〜集落エンジン100!〜」

発言内容（概要）

- 1 開催日 平成24年12月22日（土）
- 2 開催場所 ホテル福島グリーンパレス 2階「瑞光」
- 3 主な意見等
 - 委託先大学生グループ
 - 冥加の生え方に驚いた。集落の方には笑われたが、見たことがないものが本当に多く、1つ1つが魅力だと思う。わたしたちが情報発信していかなければいけないと感じた。
 - 地域の方が、昔の話を楽しそうに、自慢のようにお話しされているのを聞いて、自分たちがきっかけを作りたいと思った。
 - 郷土料理は、いままで食べたことのない食感・味だが、新しくで美味しいと思った。全部美味しかった。
 - 来年度に向けて、冬にも集落を訪問して、冬の会津も体験してみたい。
 - 現在は、大学生がアイデアを出しているが、最終的には住民・役場の方が主体になって活動を展開できるように整えていきたい。
 - 受入集落の方々
 - 集落で途絶えてしまった伝統を掘り起こしてくれた。盆踊りの復活に向け、集落が少しずつだが前向きに動き出そうとしている。
 - 集落の中だけでは、人手も考え方も限界にきてしまっている。大学生グループには方向性を示してもらい、行事等も復活させていきたい。
 - 大学生は、我々住民には当たり前なのに驚き、喜ぶ。価値観が大きく変わった。
 - ある程度大規模、ある程度まとまった施設がないとイベントは出来ないと思っていたが、我々が日頃大事にしている自然や習慣がムラの財産であることに気づいた。
 - 大学生の新鮮な目で我々を見てくれたことに感動。すでに親戚のようなものなので、これからも交流を深めていきたい。
 - 過疎化で地域は寂しくなる一方。集落のシンボルづくりに励んでいきたい。
 - 大学生と一緒に郷土料理を実際に再現してみたが、集落のおばあちゃんたちが非常に盛り上がった。大変刺激になり、勉強になったようだ。
 - 恥ずかしながら、息子とは中々話が出来ないが、大学生とはたくさん話せた。次は、地区の若い人たちが活動に集まってくれればと思った。
 - 学生さんが地区のイベントに参加してくれたことにより、イベントが大変盛り上がった。今は、地区の若い人もイベントに参加するだけでなく、企画等に入ってもらうよう計画を進めている。

■ 講師

- 他のグループの活動を聞いて、「いいアイデアだ！」と思ったものはお互いに取り合い、自分の集落でもやってみるということは非常に良いこと。活動の幅が広がる。
- 担当しているいわき市の集落では、今年度、知り合いの先生を読んで、「高部のうた」作りのためのワークショップを開催。作った歌は集まる機会がある度に流していこうと思っている。
- いわき市の集落では、第一原子力発電所からギリギリ30km圏外であったものの、学生が自分たちで空間線量の測定を行い、放射線マップを作成。収穫した米も民間検査会社に持ち込み、安全が保障された米を大学祭で完売させた。集落の方の自信にもつながる。
- 大学生グループ内の先輩から後輩への引継ぎが難しい。大学生はもちろん、集落の方も工夫が必要。
- 「よそ者、若者、バカ者」という言葉があるが、大学生は3つ全てを備えている。
- 昔のことを掘り起こす、思い出す、思い出せる人がいる内に、記録・保存することが大事。色々な話を掻き集めておいて、「いつか使ってやろう」という強かさも大事。
- 地域にキーパーソンがいることは非常に羨ましいこと。
- 地域の資源には気づいても、それを磨くということが非常に大変な作業。しかし、それを一生懸命磨くと本当に素晴らしいものになっていく。
- 学生さんと集落の皆さん、常にお互いに刺激を与え、受けながら、いつか訪れるマンネリをどうするかを考えてほしい。
- 大学生と集落の細く長く付き合っていける間柄を作るために、横のつながりが大事になってくる。今日の機会を大切に。